

1-1 ひび割れ補修(可撓性エポキシ樹脂パテ薄塗り工法)

打放しコンクリートのひび割れ0.2mm以下の補修(挙動の少ないひびわれ 部分の補修)

施工手順

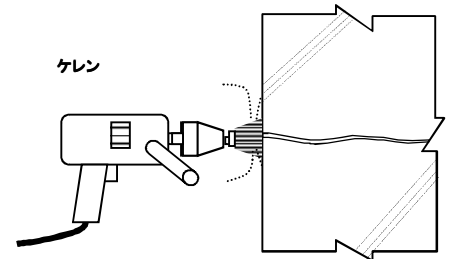
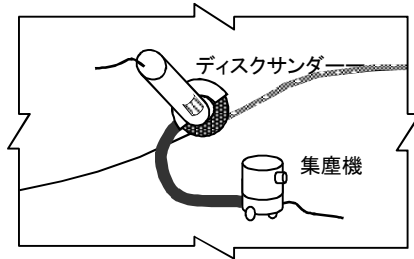
施工方法

補修範囲の確認

- ・クラックスケールで検出し、ひび割れに沿ってマーキングし補修範囲を確定する。
(既設外壁塗装面が吹付けタイルの場合は、塗装仕上げ時に、違和感を生じる恐れがあるので、吹付けタイルパターンの復旧法を協議し、確定後に施工を実施する。)

サンダーケレン

- ・サンダーケレンは、ひび割れに沿って集塵装置付きディスクサンダーで研磨する。研磨は、ディスクサンドペーパーを使用し、ひび割れを中心に幅50mm程度の表面劣化層を薄く除去する。
※表面研磨作業は、多量の粉塵を発生するので、必ず集塵、防塵対策を充分行う。

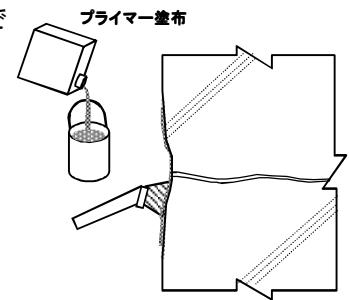


清掃

- ・研磨部分の切粉をワイヤーブラシ、及びダスター刷毛で除去し清掃する。

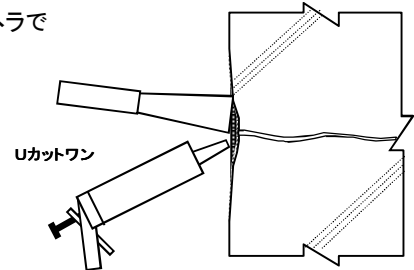
プライマー塗布

- ・プライマー ボンドユニエポ補修用プライマーを、ひび割れに沿って塗布する。
塗布量0.2~0.3kg/m²(塗布後1日以内に次工程に移行する。)



可撓性エポキシ樹脂パテ材塗布

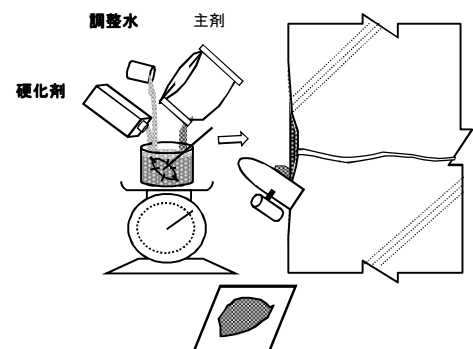
- ・ひび割れ表面に沿って可撓性エポキシ樹脂パテ材をヘラでしごき塗りする。
ボンドUカットワン(1液性エポキシ樹脂パテ材)



ポリマーセメントフィラーの混合

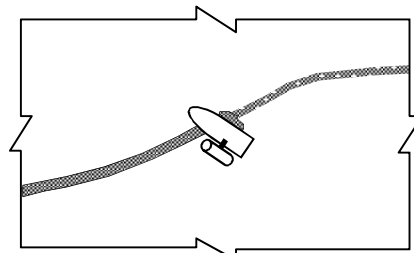
- 主材: 硬化剤:水を既定の配合比で混合し、使用する。
ボンドVPフィラー(カチオン系ポリマーモルタル)

主材粉体	20kg
硬化剤	4kg
水	1~2kg



フィラーしごき塗り

- 研磨部分に沿って左官ゴテでフィラー材をしごき塗りし、表面の水引を見計らって表面仕上げ押さえを行う。
※施工後、必要に応じドライアウト防止養生を行う。



完了

※ 補修作業は気象条件に十分注意し、夏季のドライアウト及び冬季凍結障害が発生しないようにする。特に冬季作業は夜間の結露や凍結障害を防止するために早めの作業終了や障害防止対策を講ずる。